

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 6 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	572207736
法人名	有限会社 ホサカ
事業所名	グループホーム ゆとりの里
所在地	山本郡三種町浜田字村下343-1 (電話) 0185-85-2271
評価機関名	マイケアプラン研究会
所在地	秋田市東通三丁目9-31
訪問調査日	H21年6月29日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設依頼スタッフの移動が少なく管理者及びスタッフ同士の意思疎通が図られています。それが利用者及び家族との信頼関係の構築に反映されています。職員会議で利用者のケアカンファレンスを行い計画作成者と担当者の共同作業としてケアプランが作成されています。ケア方針が統一され利用者の状況及び状況認識を共有されています。スタッフが座右の銘とするケアの基本理念・利用者の生活リズムを尊重した生活スタイルが基本になっています。又、自然環境に恵まれ四季の変化をホーム内外で自然に肌で感じるが出来ますし、スタッフが行う介護内容にも工夫が見られます。

【情報提供票より】 (21年05月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	H14年12月01日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算	3.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 /	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(05月31日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	2名	要介護2	3名			
要介護3	2名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	92.1歳	最低	84歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ドラゴンクリニック
---------	-----------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価に基づき、アセスメント及びサービス計画書の充実に取り組み、計画書の内容がより豊富になっていました。そして利用者及び家族とスタッフとの共同作業としての計画書の作成という新たな目標も設定されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は管理者が作成した報告書を基にスタッフが討議して作成されました。スタッフもこの討議の過程でケア内容を振り返り新たな気付き・発見の機会にもなっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域自治会長・包括支援センター・利用者及び家族で構成されています。利用者の生活状況だけではなく避難訓練・権利擁護事業等についての学習会等が行われ、活発な意見交換がなされています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議には利用者家族が参加しています。又、ホーム内には意見箱が準備されています。スタッフも家族が面会に来た時にサービス・ケア内容等について意見を引き出そうと勤めています。定期的に家族に利用者の生活状況を報告しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の福祉施設から行事等の参加の誘いがあれば可能な範囲で交流しています。町民祭にも参加しています。利用者さんの生活環境を尊重しつつ地域の一員としての生活の構築にも取り組んでいます。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフで「その人らしさ・思い・時間を大切に」という理念を座右の銘にしてケアに共同で取り組んでいます。また、利用者を地域の一人とし生活を継続することを共同作業として取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフは随時理念に立ち返りケアを振り返っています。又、統一した方針で利用者のリズムでの生活を構築しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の社会福祉施設から行事の誘いを受けの参加や町民等への参加を等通じて地域社会との積極的な交流を大切にしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者の原案を基にスタッフが討議を行っています。そこでの討議でケアの振り返りや新たな気づきを確認し合う機会という認識が確立されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は施設スタッフの他に地域包括支援センター、自治会長、家族代表、ホーム利用者から構成されています。ホームでの生活状況、避難訓練、権利擁護事業等の議題について活発な論議が展開されています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年から自治体とメール等による情報交換が可能になりました。時事的な情報として例えばインフルエンザ対策等がありました。自治体との情報交換は必要時行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者家族には定期的に生活状況を報告するシステムが確立されています。又、状況に応じては電話による連絡も行われ情報の共有に取り組んでいます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び面会時に家族から要望等を引き出す努力は継続的に行なわれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の変更は余りありませんが、職員の移動があった時は利用者への影響を最小限に防ぐよう配慮し、家族にも面会時等に紹介するようにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修スケジュールに基づいて参加者希望を募り研修会への参加を積極的に保障しています。又、参加者は職員会議において伝達学習を行ないスタッフで共有すり努力が実践されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループ協議会に加入し、他のグループホームスタッフとの交流及び研修会の機会としても活用していますし、また、その伝達学習も行われています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入所体験及び見学が可能です。入居が間もない利用者にはホームでの生活に慣れるまでは見守り・声掛け等により安心感を体得できるよう対応しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日中は殆どホールで各自の生活リズムで過ごしています。日常的にも利用者は喜怒哀楽を自由に表現できる生活環境が構築されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメントにより利用者の生活スタイルの把握に努めています。又、担当制を導入し日常生活の中から利用者から直接聞き出したり、家族からの情報を基にアセスメントの内容を豊かにしており、スタッフが共有すよう努力されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画担当者はスタッフ・担当者とのモニタリング・カンファレンスでケア方針を討議し作成・共有しています。スタッフとの共同作業としてのケア方針が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則6カ月ごとのスタッフによるカンファレンスにあわせた見直しがされています。そしてケア方針についてはその根拠も明確に記載されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の馴染みの関係を尊重した個別対応が（理髪店・外出等）が行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿った受診が継続されています。往診も可能です。又、通院はスタッフが対応しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族及びスタッフは主治医と連携するシステムが確立されています。可能な限りホームでの生活を継続する対応は可能です。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の取り扱いは家族と同意書を取り交わしています。又、ホーム内では個人が特定できる書類の取り扱いには細心の注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを尊重したケアが実践されています。外出・趣味活動等の随時の対応も行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力および状況に応じて（テーブルを拭く、食器を拭く等）食事を楽しむ工夫をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴は確保されています。利用者が入浴する度にお湯を交換し新鮮な気持ちで入浴が出来るようにしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者毎の生活リズム・能力に応じて、そして尊重したケア方針に基づいた支援が実践されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食・スーパーでの買い物・ドライブ等利用者の希望に応じて外出支援が実践されています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	午前6：30から午後7：00の間は施錠されていません。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練が実施されています。地域の協力も得られよう働きかけも行われています。運営推進会議での議題になっており訓練の報告のなされています。尚、避難訓練は頻回に行っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1400キロカロリーを目途にした食事になっています。地域在住の栄養士の協力も得ています。水分チェック・食事摂取量等の確認・記録もなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節を感じる工夫、廊下には利用者の共同作品が展示されています。ホール及び廊下にはソファが置かれており利用者の個別生活を創造しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はスペースの利用方法を個別に工夫したり、馴染みの家具等を持ち込むことにより利用者の個性が演出され居心地の良い雰囲気となっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。